

## 第 22 回 番組審議会議事録概要

---

### 1. 開催日時

令和 5 年 3 月 29 日 (水) 午前 10 時 30 分より

### 2. 開催場所

東京都港区台場 2-4-8 フジテレビ本社 会議室

### 3. 出席者

委員長 : 吉岡忍

委員 : 渡邊健一、池田哲雄、笹田佳宏、砂川浩慶、宮崎美紀子、長谷川晶一  
(欠席 : 竹中尚人)

株式会社サテライト・サービス

加藤浩輔、石井浩二、窪田正利、福本洋、白田玄明、岡本栄史、武井俊人、  
中田智之、岡崎洋三

株式会社スペースシャワーネットワーク

藤島克之、福田哲兵、柴田洋平、西村和晃

CJ ENM JAPAN 株式会社

三澤法夫、金琴實、山川健太

株式会社 JCOM

斎藤弘之

株式会社 WARNER BROS. DISCOVERY

土谷大輔、五十嵐みゆき

### 4. 議題

- 1) 「ライジングでの NUMBER GIRL」  
スペースシャワーTVにて令和 5 年 2 月 9 日放送
- 2) 「JO YURI's Music Trip ～江の島・鎌倉編～」  
Mnet にて令和 4 年 10 月 9 日放送
- 3) その他 報告事項

審議に先立って加藤社長から以下の報告があった。

- ・今年の 5 月 11 日に認定期限を迎えるスペースシャワーTV、Mnet の 2 チャンネルについて、認定更新の申請が無事総務省に受理された。フジテレビの 3 チャンネル、ディスカバリーチャンネル、アニマルプラネットは来年 5 月が更新期限となる。

議題番組について各委員から次のような意見が出された。

■スペースシャワーTV 「ライジングでの NUMBER GIRL」について

- ・ものすごくよくできた番組。地上波的な感覚で言えば何を伝えたいのかわかりづらい部分はあったが、マニアックな人に対してはとても良く刺さる。
- ・番組として30分しかないのにすごく凝縮されていて、ファンが見たいものをファンがファンのために作った切り抜き動画のようだ。ステージのカッコよさも普通のおじさんっぽさも詰め込まれていた。
- ・余計なナレーションなしで、コロナ明けのフェスにどのような気持ちで集まっているのかなどがよく伝わる。30分尺でしっかり詰め込まれており、集中して見られる作り、さすがスペースシャワーTVだなと思った。
- ・音楽通以外には不親切な作りもスペースシャワーの良いところ。マニアックなジャンルのファンにとっては、一つでもわかってくれるメディアという存在があると、そのメディアについていきたくなる。スペースシャワーはそういう位置を確立している。
- ・向井秀徳さんという個性的なアーティストにとって、本当は見せたくないような冒頭のアンプを通さない舞台裏のシーンを見せることは、音楽ファンの感動を呼んだと思う。感動的な導入だった。
- ・再結成、再解散ライブという衝撃的なイベントをセンセーショナルに扱わないことは、ある意味で謙虚な姿勢ともとれるが、ドラマチックに演出してもよいところをよく我慢したな、と思う。
- ・あまりこのバンドを知らない人間からすると熱がいまひとつ伝わらない部分もある。メジャーデビューから取材しているスペースシャワーTVであれば、現在までの経緯を説明してくれば、バンドの特性が伝わりやすく、楽しめたのかなと思う。
- ・「ライジングサンで演奏することができました。よかった。どんな形で合ってもよかった」という言葉が番組内であったが、コロナ禍による演奏ができなかったことを指しているのか、解散・再結成を指しているのか、もやもやしたという印象がある。
- ・「落とし前をつけるためにやってきた」という言葉、これはライジングに参加する意味を伝えるための言葉だと思うが、ライジングという場所の意味というのをもう少し知りたかった。
- ・表現には二つのパターンがあると思う。「あなたと一緒にですよ」という癒しともいえる「同調をうたう歌」、「あなたとはちがうよ」という「違和感をうたう歌」。ナンバーガールは後者で、彼が表現しようとしているのはとても重要な音楽ジャンルだと思うが、どうやってそれを番組で表現するか、どのようなリズムで刻んでいくか、これは大きな課題。CS放送という媒体は、大衆的な層ではなく、そうではない深い層に刺さっていかなくてはならないが、有料放送自体が低迷している中で、あらゆる層が理解する

可能性が高まる親切さも必要になってきているのではないか。

- ・（上記意見に対して）地上波があまりに説明過多になっている。それに対してうんざりしている「アンチ地上波」の人たちに心地よさを与える側面もあるのでは。
- ・（同様に上記意見に対して）観る人に親切なスペースシャワーTVは必要ないと私は思う。スペースシャワーTVを観る人は大衆的な音楽番組は見ないので。マニアだけでコンテンツが回っていく時代が来ているのであれば一番素敵ではないか。
- ・すでに解散してしまったバンドの番組なので、新しいファンを獲得する目的は無かったのではないか。スペシャとしては、視聴している人はライジングに立つ思い入れはすでに知っていると考え、その説明を30分という尺の中に入れ込むよりは、メンバー4人の姿を見せる、つまり新規の視聴者を切り捨てたという姿勢であると認識している。制作サイドの割り切りも感じたし、それでいいと思う。

委員からの意見に対し制作サイドから（スペースシャワーネットワーク 柴田氏）

- ・ ナンバーガールというバンドがなぜライジングを解散の場所として選んでいるか、思い入れを持っているか、という点については、本番組が放送されたときに、その直前まで4時間に渡りライジング自体の放送をしていたので、その中で出演者のライジングに対する思い入れも多く流していた。その流れで視聴していただいた方には、あえての説明は必要なかったと思うが、その部分に関しては事前に委員の皆様にもご説明しておくべきだった。

ご指摘の通り、スペースシャワーTVは音楽に対してライト層には親切な番組作りはしていない。それは当社の課題でもある。もう少しバンドについて丁寧に説明すればよかったですと感じ、それを糧に番組制作に役立てたい。

（委員から「不親切さは意図してやっているのか」という質問に対して）

- ・ 地上波的な演出よりも、アーティストとして表現したい撮り方とかを優先していて、意図してやっているといった形ではない。アーティストの方に納得してもらえるとともに、視聴者の方にさらに興味を持ってもらえるような演出の仕方を模索している。だからこそスペシャに撮ってほしいといった信頼を得ているのだと思う。ただし不親切に映ってしまった点は、アーティストの「幅広い人たちに知ってほしい」といった思いとは離れた形で放送されているということと同義で、反省点である。

#### ■Mnet 「JO YURI's Music Trip ～江の島・鎌倉編～」について

- ・ 生シラスを食べたい、と言いながら入口がわからないといった理由で生シラスを食べることのできるお店をスルーしたり、シラスはシラスでもゆでシラスは食べないというこだわりを示したり、日本語の生シラス看板がわからなくてスルーしたり、これはいったい何の番組なんだろうと思いつつ、最後生シラスを食べられた時に安心感が

あふれた。まさに彼女に翻弄された 45 分間であった。

- ・ 彼女のことは全く知らなかったが 2、3 回と夢中で見てしまった。
- ・ 一人の女の子が日本でいろいろ発見していく姿に癒された。
- ・ カメラアングルについて、アップが多い。画面の色合いにも個性を感じた。
- ・ いわゆる食レポのお約束がまったく無い。臭いをまず嗅ぐ仕草や、思ってたのと違うなどと口に出してしまうシーンを見ると、こちらがドキドキしてしまう。最近のタレントを使った街ロケ番組にはない、リアリティあふれる番組だと思う。
- ・ 番組の冒頭で、「その今をときめくアーティストが旅する中で感じた思い、大体大好きな曲に乗せておくスペシャルプログラム」とわざわざ銘打っているにもかかわらず、結局「思い」とは何だったのかわからない。
- ・ 「千と千尋みたい」といったシーンのバックに全く関係ない音楽が流れていて、彼女の思いというよりは、撮った映像ベースで繋げている印象があって違和感がある。
- ・ なぜ鎌倉と江の島なのか？場所の関係性もわからない。またアップを多用しており、場所の説明もしないので、どこを散策しているのかもわからない。場所的な意味がある番組の作りではなく一貫性が無いように見えた。
- ・ 彼女はミュージシャンという側面があり、ピアノ演奏も得意。であればもっと音楽をベースにしてもらった方が面白かったのではないかなと思う。
- ・ これは革命的な番組だと思う。韓国語をメインに話している出演者にもかかわらず、ナレーション無しで番組が進行している。インサート映像でそれを補っていることで、視聴者に解釈させる作りとなっているところが見事。また 1 台のカメラによるアップショットが良い。最近の街ロケ番組は何台ものカメラで撮影していて、番組でもスタッフがしょっちゅう映り込んでいる。この番組にはそれがなく、実にきれいな映像が撮れている。ただ、せめて彼女が選択したという曲の必然性を説明するテロップが欲しい。
- ・ かわいさを表現したい作りであれば今回の作りで問題無いかと思うが、韓国語でいいから、アーティストとしての彼女がこの旅を経て感じた思いみたいなものが分かるような作りだったら、より良いものが創れていたのではないか？
- ・ 何かを伝えようとしている番組ではなく、何かを映そうとしている番組。意外性があったとしても納得する、不思議な魅力のある番組だと感じた。

委員からの意見に対し制作サイドから (CJ ENM Japan 金氏)

- ・ 従来、Mnet の番組は本社が制作したものが多く、今回は日本の会社でハンドリングした自主制作番組を見ていただいた。  
彼女はアイドルでもあり、アーティストでもある、という部分をフィーチャーした番組を目指したが、その親和性が薄れてしまった点は感じていた。アーティストの部分を選曲という部分で表現しようとしたが、引き出しきれなかった。

ロケの際には、ある程度はお店に目星をつけてのぞんだが、全く事前のアポイントメントはとらなかった。彼女一人で自由に色々なところに行けるというポテンシャルを生かし、自動販売機で卵焼きを突然買うような、偶発的で予想できない彼女の等身大の姿が表現できたと思う。カメラアングルと色味も「映画らしさ」を求めた。

審議終了後、加藤社長から「ディスカバリーチャンネル、アニマルプラネットにおける放送上の不体裁」について報告事項があった。

- ・ 昨年6月ころから両チャンネルにおいて、海外から日本への回線の不具合による映像・音声信号のごく短時間の中断、または映像・音声がずれるなどの放送上の不体裁が頻発し、総務省からの要請で、サテライト・サービスとして昨年12月に総務省に報告と説明に伺った。
- ・ 総務省からは「日本での送信所に障害があったわけではないので、総務省が報告を課している『重大な放送事故』ではないが、今後サテライト・サービスとして放送前のコンテンツチェック体制を徹底してほしい。」という指導をいただいた。

また加藤社長からの報告に続いて WARNER BROS. DISCOVERY 土屋氏から回線プロバイダーの変更、日本のコンテンツチームとシンガポールのチームとの連携のチェック体制の強化、送信所の体制強化といった再発防止策について説明があった。

次回予定

- ・ 次回は8月開催を予定。
- ・ 議題はアニマルプラネットとフジテレビ TWO ドラマ・アニメの番組の予定

以上